

躍進の音

~If you can dream it, you can do it.~



木津川市立木津第二中学校

学校便り5月号

令和8年4月30日

【めざす生徒像】

- 『友愛』 他人に思いやりを持ち、ともに高め合う生徒 【社会の創り手となる生徒の育成】
『礼節』 礼儀と節度を守る生徒 【他者を価値のある存在として尊重できる生徒の育成】
『協力』 力を合わせ、よい校風をつくる生徒 【多様な人々と協働できる生徒の育成】

【学校教育目標】

生徒一人一人が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら豊かな人生を切り開く力を育み、社会の作り手となる生徒を育成する。

太陽の光が日増しにまぶしくなり、校庭の木々も鮮やかな新緑に包まれる季節となりました。新年度のスタートから早いもので一ヶ月が過ぎました。新しい環境に緊張気味だった生徒たちも、今ではすっかり学校生活のリズムをつかみ、教室には落ち着いた学習の空気が流れています。登校時には、元気な「おはようございます!」という声とともに、進んで挨拶を交わす生徒の姿が多く見られるようになり、心強い一歩を踏み出せていることを実感しています。ただ多くの子どもたちは、期待と共に不安や緊張の中で過ごしてきたことで、心身ともに疲れも出ていると思います。このゴールデンウィーク中は、有意義な時間を過ごしていただくとともに、お子様の心身の疲れを回復させる休みであってほしいとも思います。また、ぜひこの1ヶ月の学校生活の様子をお子様からゆっくり聴く時間をとっていただきたいと思います。



～主体性とは～

日本経済団体連合会（経団連）が実施したアンケート（2022年発表）では、企業が新卒学生に期待する資質として、84%の企業が『主体性』を挙げています。理由の一つとして、変化が激しく予測困難な現代では、上司の指示を待つだけでは手遅れになり、自ら課題を見つけ、仮説を立てて動ける人材でないと、スピード感のある競争に勝てないためです。

『主体性』とは、一言にいうと、「自分の人生を、自分の意思で動かすもの」です。周囲に流されず、納得感を持って生きるための土台といえます。また、企業にとって『主体性』とは「変化に柔軟に対応し、自走して成果を出してくれる安心感」の指標と言えます。

今後、ご家庭でも『主体性』を育むためにできることとして、4つのポイントが挙げられます。

①小さな選択を任せる

服選びや行き先など、日常の些細な「自己決定」の積み重ねが自信になる。

②「過程」を肯定する

結果の成否ではなく、自分で考え、工夫して動いた「プロセス」を具体的に褒める。

③「待つ」を意識する

先回りした指示をぐっと堪え、子どもが自ら動き出すのを待つ余裕が思考力を育てる。

④失敗を許容する

「間違えても大丈夫」という安心感（心理的安全）が、次への挑戦意欲を生み出す。

学校と家庭が連携し、子どもを一人の「自律した個人」として尊重しながら、意思決定の場と失敗を許容する環境を提供し続けることが、将来社会で活躍する「主体性」の土台となります。

木津川市HPより



令和8年2月17日、私たちの住む木津川市にある「恭仁宮（くにきゅう）跡」が、全国で66件目となる特別史跡に指定されました。

ここは奈良時代、聖武天皇によって平城京から遷都された場所です。都であった期間は短かったものの、大仏造立の詔や墾田永年私財法の発布など、その後の日本を大きく変える仕組みがここで決まりました。

京都市外では京都府内初の快挙であり、金閣寺や銀閣寺の庭園と並ぶ、世界に誇れる歴史の舞台が身近にあることは、まさに「地域の誇り」と言えます。